

ウィーン万博150周年記念

# 音楽の都からの贈り物

～ウィーン木管五重奏団コンサート～

Konzert  
"150 Jahre Wiener Weltausstellung"

日本が初めて国際舞台に登場したのが1873年(明治6)に開催されたウィーン万博でした。万博には日本の工芸品などが出品され、ヨーロッパにジャポニズム旋風を巻き起こしました。出品物の中に甲府市の金桜神社の御神宝水晶玉も出品され「宝飾の街甲府」を世界に発信する礎となりました。ウィーン市と山梨県の交流を図るため毎年開催しているコンサートですが、今回は、150年前の出来事に思いをはせつつクラシック音楽の聖地の響きをお楽しみください。



## 第1部 ウィーン木管五重奏団

W.A.モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」序曲  
A.ドボルザーク：ユーモレスク  
J.ブラームス：ハンガリー舞曲第5番、6番  
G.リゲティ：6つのバガテル  
J.シュトラウス：春の声  
J.シュトラウス：観光列車

## 第2部 ウィーン木管五重奏団&やまなしジュニアオーケストラ

J.シュトラウス：喜歌劇「こうもり」序曲  
W.A.モーツァルト：フルート協奏曲第2番～1楽章  
W.A.モーツァルト：オーボエ、クラリネット、ホルン  
ファゴットのための協奏交響曲  
～3楽章



※出演者、演奏曲は変更になる場合があります。出演者は病気などの都合で予告なく変更になる場合があります。

日時 2023年10月14日(土) 14:30開場/15:00開演

13:45～14:15 山梨県立大学生による日壇レクチャーステージ

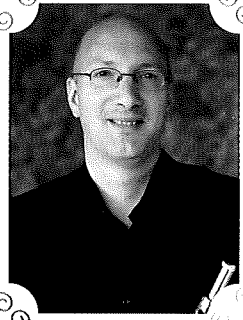
会場 YCC県民文化ホール 小ホール

チケット 大人1,000円 子供(高校生以下)500円 全席自由

各種問合せ YCC県民文化ホール TEL 055-228-9131

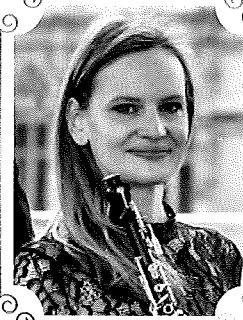
主催 山梨県、アドブレン・共立・NTTファシリティーズ共同事業体、山梨国際交流音楽祭実行委員会  
後援 オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム東京、ウィーン国際文化協会 協力 ウィーン国際音楽文化協会

### ウィーン木管五重奏団



マティアス・シュルツ  
(フルート)

ウィーン国立歌劇場管弦楽団／ウィーン・フィル奏者(ゲスト)。  
ウィーン国立音楽大学にて父親でありウィーン・フィル首席フルート奏者故ヴォルフガング・シュルツ教授の元で学ぶ。数多くのコンクールで優勝。  
ザルツブルグ音楽祭、ザルツブルグ・モーツァルト週間等に出演し、ソリストとしてはウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団、ザルツブルグ・モーツァルト管弦楽団、リンツ・ブルックナー管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、新日本フィルと共演。室内楽では数多くのCDがリリースされている。これからウィーンのオーケストラを担う若いソリストと達により結成されたパオレ・ウィーン木管五重奏団のリーダー。



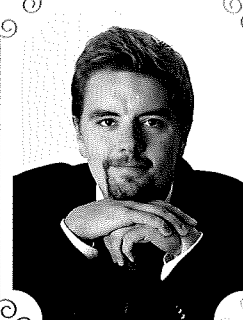
ユリア・ツールス  
(オーボエ)

ウィーン国立歌劇場管弦楽団／ウィーン・フィル奏者(ゲスト)。  
ウィーンに生まれウィーン国立音楽大学にてクラウス・リーンバッハー教授に師事。その後、ウィーン・フィルのハラルド・ヘルス教授に師事。フランス・リヨン国立高等音楽院にてジャン＝ルイ・カベツァリ、ジャローム・ギシャール教授に師事。在学中に東京財団より奨学金を得る。ウィーン・フィル、ウィーン交響楽団等主要オーケストラと共演。室内楽ではヴェーベルン木管五重奏団のリーダーとして、ニューヨーク、ブダペスト、テヘランやウィーン楽友協会、東京のサントリーホール等でも演奏。フランス・マルセイユでのアンリ・トマジ木管五重奏国際コンクールでは3位。2014年からウィーン国立歌劇場管弦楽団オーボエ奏者。



クリストフ・モーザー  
(クラリネット)

ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団首席奏者／ウィーン国立音大教授。  
18歳よりクラリネットを始め、アントンブルックナー私立音楽大学、及び、ウィーン国立音楽大学にてヒンドラー教授に師事。また、ウィーン国立音楽大学でジャズも学ぶ。学生時代に数々の賞を受賞し、卒業と同時にドイツのオーケストラに入団。その後、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン国立歌劇場、NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団、シュターツカペレ・ドレスデン、ウィーン放送交響楽団、モーツァルテウム管弦楽団等と定期的に協演。国際コンクールで審査員を務める他、2013年よりウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団で第1クラリネット奏者を務め、2017年よりウィーン国立音楽大学にてクラリネット科教授を務めている。



ヨハネス・カフカ  
(ファゴット)

ウィーン国立歌劇場管弦楽団／ウィーン・フィル奏者(ゲスト)。  
リンツ・アントンブルックナー市立音楽大学で学んだ後、2008年よりウィーン国立音楽大学にてシュテファン・トゥルノフスキー教授に師事。  
リンツの学生時代には指揮法、合唱指揮法も学ぶ。  
国・州主催コンクール「プリマ・ラ・ムジカ」で数多くの部門で入賞。ソリストとしてはリンツ・ブルックナー管弦楽団等と共演。ザルツブルグ音楽祭等、数々の音楽祭にも出演。若音楽家で結成されたウィーン・プラス・コネクションのリーダーも務めている。2010年からウィーン国立歌劇場管弦楽団ファゴット奏者。



ヨナス・ルードナー  
(ホルン)

ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団首席奏者。  
14歳の時よりホルンを当時のウィーン・フィル首席奏者、ギュンター・ヘーグナー教授より習い始め、ウィーン市立音楽大学にて学んだ後、2000年よりウィーン国立音楽大学にてローランド・ベルガー教授、トーマス・ユプストル教授に師事。ウィーン・フィル、ウィーン交響楽団等のオーケストラで演奏。演奏両旅行も数多く、日本、韓国、中国、オーストラリア、ヨーロッパの各地にて演奏。ウィーン・フィル、ベルリン・フィルメンバーとのCDも数多く出しており、パオレ・ウィーン木管五重奏団のメンバー。日本には指揮者、佐渡裕氏から依頼を受け、プロジェクト参加の為ホルン奏者として来日。2007年からウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団首席ホルン奏者。



公演監督  
岡部 武彦

音大音楽科卒業後、ウィーン国立音楽大学音楽科を特待生として修了。  
イタリア・ミラノにて研鑽し、その後、スペイン・バルセロナへ。15年間にわたるヨーロッパ生活にピリオドを打ち帰国。  
近年は海外の歌劇場、音楽事務所の声楽アドバイザーの他、ウィーン少年合唱団、ウィーン国立歌劇場、及び、ウィーン・フィルメンバー等とのコンサートを行っている。  
西武文理大学特命教授。山梨県立大学客員教授。ウィーン国際文化協会第一副会長(ウィーン)。  
やまなし大使。2022年オーストリア大統領よりオーストリア共和国有功名誉金賞叙勲。

### やまなしジュニアオーケストラ



2011年、音楽を通して豊かな人間性を育むことを目的に小学生から高校生を中心とした公募オーケストラでの活動を開始。  
2012年3月にコンサートを開催。これをきっかけに、その年の4月に正式に「やまなしジュニアオーケストラ」を設立。以来毎年3月の定期演奏会をはじめ甲府市交響楽団演奏会などに参加。  
ウィーン木管五重奏団とは、2016年の五重奏団来日以来毎年共演など交流を重ねている。この縁で2019年、ウィーンで開催された日奥修好150周年記念コンサートに招かれ、音楽の都の聴衆の前で演奏を披露した。